

令和4年度 行政経営の重点方針

私たちは、長期化する新型コロナウイルス感染症により健康的・経済的ダメージや社会的分断を経験する中で、早期にこの厳しい局面を乗り越え、ニューノーマルへと向かう確かな道筋を築いていかなければならない。

とりわけ、ウィズコロナ時代の中で、少子高齢社会や人口減少社会の進展と併せて、DX(デジタル変革)等によるスマート社会への動きが加速度的に進行するとともに、カーボンニュートラルによる脱炭素社会の実現に向けた取り組みが促進され、更には、社会課題の解決に向けたSDGs(持続可能な開発目標)導入への理解が広がるなど、これらの社会構造の変化は、持続可能な自治体経営への変革を求めている。

こうした時代の潮流をしっかりと認識しつつ、本市は、様々な環境変化に適応しながら、持続的に成長できる都市を目指すべく、多彩なまちの魅力やリソースを調和させ、その高い結晶性による市民のクオリティ・オブ・ライフを創出し、将来世代へと継承させていく。

新たなフェーズに入ったリニア駅誘致や新図書館を核としたJR亀山駅周辺の整備など、その新たな胎動が生まれつつある今、喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症対策に万全を期すとともに、中心市街地の再生と若者の定住促進、人生100年時代に備えた共生社会の構築、交通拠点性の向上と産業立地の促進など、地方創生による真の健康都市「緑の健都 かめやま」の実現を目指し、「第2次総合計画/グリーンプラン2025」の新たな展開と「第3次行財政改革大綱」による財政健全性を確保し、その両立に挑戦していかなければならない。

これらを踏まえ、来る令和4年度を『改進の年』と位置づけ、以下の取り組みを行政経営の重点方針として定める。

1. 「第2次総合計画」後期基本計画のスタートダッシュ
2. 「第3次行財政改革大綱」前期実施計画の必達
3. 組織機構改革・働き方改革の実現